

1 自己評価及び外部評価結果

作成日：平成22年6月4日

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|--------------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 4075300154 | | |
| 法人名 | 社会法人小竹福祉会 | | |
| 事業所名 | グループホーム 新多園 | | |
| 所在地 | 福岡県鞍手郡小竹町新多上日177-8 | | |
| 自己評価作成日 | 平成22年5月15日 | 評価結果市町村受理日 | 平成22年9月22日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 株式会社 福祉サービス評価機構 | | |
| 所在地 | 福岡市博多区博多駅南4-2-10 南近代ビル5F | | |
| 訪問調査日 | 平成22年6月1日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

| |
|-------------------------------|
| ・トイレでの 排泄 ・家族との繋がりがり ・嚔下障害の予防 |
|-------------------------------|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

見事な新緑に囲まれたホームは、どこからともなく“うぐいす”の鳴き声が聞こえてくる。それは、作られた自然ではなく、歴史ある大地の中で根付いてきた木々であり、“そこ”にいただけで、体の底から次第に“元氣”が湧いてくる感覚になる。ホームの中の時間も周囲の自然と調和しており、ゆったりと時間が過ぎているのがわかった。ホームの中と外の時間の流れが同じであるために、ご利用者のストレスも少なく、自由に中と外を行き来しながら、日々、自然の中で森林浴が楽しめている。ご利用者のお部屋を訪問させて頂いている時、窓の外に、その方の知人の方が笑顔で立っておられた。窓越しの挨拶も日常となっているようで、その後、部屋の中に来られた知人の方との楽しい団欒がしばらく続いていた。職員の離職もほとんど無く、新しく入職した職員も含めて良いチームワークが作られており、職員の意見やアイデアは多い。時間ができると意見交換が始まり、常に“更なる良いケア”を考える環境ができています。その職員のチームワークを作ってきたのは、開設時から勤める管理者であり、開設から7年、細やかな観察力を巧みに活かし、ご利用者、職員等の体と心の変化を見つめてきた。今年は、あらためて“原点に戻る”ことを掲げ、ご利用者の“想い”に更に近づけるように努めていく予定である。

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | | 地域密着の視点を持ち、19年に職員全員で考えた新たな理念「住み慣れた地域で 笑顔あふれる 充実した日々を」送れるよう、職員はご利用者との会話を大切にしており、意見交換も続けている。朝の理念の唱和も続けており、自然体で過ごす中、笑顔がいつもあふれ、日々充実していると感じている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している | 特になし | 住宅地から離れた場所にあり、日常的に交流という事は難しい状況にあるが、隣接するデイサービスに来られる方がホームに来られたり、地域のボランティアの方が来訪し、踊りや三味線を披露して下さっている。母体施設にも、小学生や保育園児の来訪があり、ご利用者も一緒に参加している。野菜の差し入れを頂くことも多い。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 特になし | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | なし | 21年度は、ご利用者の入退院等が続いたこともあり、2回しか開催できなかった。22年度からは、2か月に1回、ご利用者、ご家族、民生委員、区長、町役場の方が参加され、ホームの行事報告や災害対策についての意見交換が行われている。参加者からの貴重な意見はホーム側で協議され、より良い運営に活かせるように努めている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 相談があればいつでも対応していただいている | 最低月に1回は、管理者が窓口を訪問している。相談する内容に応じて、小竹町役場や福岡県広域連合等に相談をしているが、それぞれ親身に相談に応じて下さる姿勢は変わらず、より良いホームとなっていくための意見交換や協力体制もできている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 拘束委員会を法人で会を作り定期的に会議が開催されていたが、今 休止状態となっている 施錠は就寝時間帯のみとなっている | 法人全体で拘束は無いため、委員会は休止している。ホームでも、身体拘束をしないケアが実践されており、ご利用者の精神の安定を図り、不眠の改善を図るために、アソビや散歩、家事など、適度な活動を日課に取り入れている。昼間は玄関が開放されており、職員の見守りのもと、自由に一日を過ごして頂いている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 努めている | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (6) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 研修に参加して 制度があることを把握している 必要性があるようなご利用者がいらっしやれば、家族へパンフレットを見せたり 差し上げている | 成年後見制度の外部研修に職員が参加したり、日常生活自立支援事業については、管理者が職員に説明し、職員も理解している。入居時、ご家族等に管理者が制度の説明を行っているが、現在、各制度を利用されている方はおられない。制度利用の必要性については、管理者が中心になって行われている。 | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 説明時 疑問等あれば 後日でも随時対応している | | |
| 10 | (7) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 目安箱設置していたが 一度もご利用がないため 撤収した | ご利用者には、日々”希望”等を伺っており、外出場所等の希望を叶えるように努めている。ご家族とは、面会時や電話の時に、運営に対する意向を確認しており、頂いた意見は職員間で共有し、対策も随時話し合われている。毎月発行している”ほのぼの便り”も好評で、職員も日々の”笑顔”を写真に込めながら手作りされている。 | 今後も引き続き、ご家族の意見を伺っていきたいと考えられている。現在、ご家族の訪問時には、努めて管理者も職員も意見を伺う姿勢を続けているが、家族全体で楽しむ場や、ご家族の更なる意見を知る取り組み(アンケート等)を続けていく予定にしている。 |
| 11 | (8) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | ご利用者の支援が スムーズに行えるよう トイレ 脱衣所 汚物処理室に 棚を要望する意見がでたので 直ちに施工 必要な物等あれば 購入し 利用者が困らないよう対応している | 職員の離職や異動がほとんど無く、新しい職員も含めて良いチームワークが作られている。職員の意見やアイデアは多く、時間ができると意見交換が始まり、常に”更なる良いケア”を考える環境ができています。職員の要望は、管理者から施設長に伝えられ、環境面の改善を含めて、職員の意見が反映される体制ができています。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 努めている | | |
| 13 | (9) | ○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している | している | 現在、職員全員が女性であるが、施設長及び管理者は、職員の募集や採用にあたり、性別や年齢等を理由に採用対象から排除することはない。職員一人一人が、その能力を発揮して生き生きと勤務できるように努めており、踊り、手芸品、工作等の得意分野で活躍してもらっている。資格取得時や休みの希望にも応じている。 | |
| 14 | (10) | ○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる | 出来ている | 人権に関する外部研修を受講すると共に、年に3～4回は、グループホーム単独での勉強会が行われており、人権に関する話し合いが行われている。施設長や管理者の考えが職員にも浸透しており、日々のケアの中でも、ご利用者一人一人の生活リズムを大切に、ご利用者のペースや意思を尊重したケアが実践されている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|----|--|--|------|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 15 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 実施していくよう努めている | | |
| 16 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 町内のグループホーム情報交換の集まりに参加している | | |
| Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 17 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 行っている | | |
| 18 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 行っている | | |
| 19 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 行っている | | |
| 20 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 自分の 家族(親 祖父母)という認識で暮らしている | | |
| 21 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 入居後 家族と疎遠にならないよう 電話 外出 外泊等 いつでも 可能な限り対応し 困難な状況のご家族には 食事を持ち込んでもらい 居室にて 家族で過ごしていただけるよう支援している | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | (11) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 面会等 本人の体調を見ながら支援している | 職員の離職が少なく、ご利用者と馴染みの関係が作られており、ご利用者が語られる“家族や知人の名前”を聞きながら、ご利用者個々の馴染みの関係が把握できている。近所の方や隣のデイサービスの知人が、気兼ねなく面会に来て下さる環境も作っており、ご家族の協力を頂き、自宅やお墓参りへの外出も続けている。 | |
| 23 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 行なっている | | |
| 24 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | お見舞い 年賀状 退院に向けての相談 施設の調整等 支援している | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 25 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 独居だったご利用者は 家族も把握できていない事柄も多く ホームで共に過ごす中で 行動等から 本人の暮らしぶりが見えてくる ことがある 本人がしたいように 生活してもらっている | 散歩の時や入浴時、居室を訪問した時など、ご本人に職員がじっくりと向き合い、行動を共にする中で、ご本人の思いや意向を知る努力が続けられている。言葉数が少ない方には、ご利用者の輪に入って頂き、表情を見ながら、意識して声かけを行うなどの支援も行われている。 | |
| 26 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | また 本人のしたいように生活していく中 少しずつ 集団生活に馴染んでいけるよう | | |
| 27 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | また 本人のしたいように生活していく中 少しずつ 集団生活に馴染んでいけるよう支援している 出来ることを 多く見つけ 家族の一員として生活をしている安らぎの場所となるよう努めている | | |
| 28 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 事前に家族から希望 を伺っている | ご本人、ご家族、主治医の意見を踏まえ、計画作成担当者が原案を作成し、各担当者、全職員で話し合っている。地域でその人らしく暮らし続けるために、ご利用者の楽しみである、お散歩やご自宅への外泊等が計画に盛り込まれている。日々の申し送りや毎月の会議の場などで、計画の変更の必要性などが話し合われている。 | ご家族や主治医が担っている役割を計画に盛り込まれると共に、短期目標をより具体的に掲げる事で達成状況も明確になり、ご本人や職員の“やりがい”にも繋がると思われる。ご本人の計画という視点を持って、更に“わかりやすい表現”にも努めていく予定である。 |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 行っている | | |
| 30 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 出来る限り受け入れるよう努めている | | |
| 31 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 安全な暮らしは提供できているといえるが、地域資源・・・は できていない | | |
| 32 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 以前からのかかりつけ医を 継続してもらっている | 職員が通院介助後、電話や面会時に結果を報告しているが、可能な限り、ご家族にも同行頂くよう声かけをしている。ご家族が通院介助をする時は、ホームの状況を記したメモをご家族に渡し、医師に伝えて頂いている。週2回の訪問看護や、週1回の医師のボランティア訪問もあり、ご利用者は医師等との会話を楽しみにされている。 | |
| 33 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 行っている | | |
| 34 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | お見舞い 担当の看護師 介護士等に 食事摂取や様子等 聞いたり 食事の介助をしたり 又ソーシャルワーカーさんに挨拶 及び退院の時期等の調整を円滑に行えるよう支援している | | |
| 35 | (15) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | している | 入居時に、管理者が“重度化した場合等の方針”を、ご本人やご家族に説明している。重度化した場合は、ご利用者のその時の状況に応じて、ご家族や医師との話し合いが行われている。食事が入らなくなった場合など、医療行為が必要と医師が判断した場合は、病院や施設に移れる支援が行われているが、可能な限り、ホームでの生活をして頂いている。 | 週に2回の訪問看護や、夜間急変時の病院の受け入れ体制等はできているが、終末期の24時間の往診体制や、具体的な対応手順等についての取り決めや方針は今からである。終末期に向けた方針について、話し合いをしていく予定であり、ご利用者の不安や真意の確認も含めた取り組みも期待していきたい。 |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 36 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | している | | |
| 37 | (16) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 地域との・・・は 困難であると思われる 逆にホームが 応援に行く必要性が高い 近隣は 高齢者独居生活 | 母体施設やホームは、地域の避難場所として活用して頂く予定にしている。22年2月には、スプリンクラーや火災通報装置の工事が終了した。年に2回、法人全体で、昼夜を想定した消防避難訓練が行われており、ご利用者も一緒に参加している。災害時の備品として、缶詰め等は用意されている。 | 地域にある他の施設との協力体制もできており、22年4月の運営推進会議の時も、訓練状況が報告された。今後は、ホーム単独での訓練も予定されていることから、消防署等との合同訓練や災害時に備える備品等の検討もされてみてはいかがであろうか。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 38 | (17) | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 生活歴 性格等を 考慮し 対応や声かけを行なっている | ご利用者一人ひとりの生活リズムやペースを尊重したケアが行われている。入浴、排泄時も、脱衣中は席をはずしたり、周囲の方に聞こえないようトイレ誘導するなど、常に羞恥心への配慮が行われている。入職時含め、個人情報管理の指導が行われ、個人情報がかかれた書類はシュレッダーにかけ処分されている。 | |
| 39 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 出来ている | | |
| 40 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 他利用者に迷惑をかけないよう 本人のしたいように過ごしてもらっている アソビリ 体操は声かけは 行なうが 本人の意思に任せている | | |
| 41 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 出来ている | | |
| 42 | (18) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 行なっている | 献立作りや食材の配達外部委託されており、レジを基に職員が調理している。ご家族や地域の方からの差し入れや、ホームの菜園で採れた旬の野菜等も使われており、下ごしらえや、配膳、下膳など、ご利用者の力を発揮して頂いている。受診されている方を待たれる優しさがあり、ご利用者、職員一緒に食事をされている。 | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 出来ている | | |
| 44 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 行っている | | |
| 45 | (19) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 行っている | 個々の排泄感覚をチェックし、パッドや紙パンツ等の必要性も個別に判断している。利尿剤を服用している方も含め、日中は個別に応じたトイレ誘導を心がけ、トイレでの排泄を大切にしている。トイレでの排泄が増えたことで、下肢の筋力が付いてきた方もおられる。声かけは、周囲の方に聞こえないようにする等、羞恥心にも配慮している。 | |
| 46 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 出来るだけ 歩行の機会や運動を取り入れるよう日々の生活の中で行っている 水分補給を強化している | | |
| 47 | (20) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | 出来る範囲内の 時間のなかで 満足していただけるよう 本人のペースで入浴してもらっている | 最低、週に3回は入浴して頂いている。日替わりの入浴剤や、よもぎや菖蒲、柚子湯などを楽しんで頂くと共に、毎回、職員との会話を楽しませている。入浴を好まれない方には、「一番風呂ですよ」等、声かけを工夫している。時には、主治医から入浴の必要性を説明頂き、入浴される回数が増えてきている方もおられる。 | |
| 48 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 清潔な寝具 室温 寝具調整 季節に合わせて寝る前に、軽いアルコール 生姜湯 ココア ホットカルピス等 飲んでリラックスしていただいている | | |
| 49 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | している | | |

| 自己 | 外部 | | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 趣味のある方には 在宅でされていたように、していただけるよう 必要物品等準備し支援している 畑が好きな方には、菜園の指導をしていただいている 家事の分担も出来る方をお願いしている | | |
| 51 | (21) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 特にしていない | 特養、デイサービスと同じ敷地内にホームがあり、広い敷地内を利用したお散歩は、日常的に行われている。玄関には、お散歩用の麦藁帽子が準備されている。車椅子の方を他のご利用者が押して下さったり、途中のベンチで休憩しては、歌を歌ったり体操をしながら、ご利用者同士でおしゃべりを楽しまれている。月1回は、大型スーパーでのショッピングやお花見等も楽しまれている。 | |
| 52 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 必要時に所持してもらえよう支援している | | |
| 53 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 希望されれば いつでも使っていただいている | | |
| 54 | (22) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 現状維持 | 広いリビングや洗面台には、季節の花が飾られている。外から見えないように、浴室の窓には簾が掛けられ、開設から7年目とは思えないほど、掃除が行き届いている。掘り炬燵のある和室の他に、リビングには高さの違うソファや椅子が置かれ、一人ひとりが思い思いの場所で寛がれている。ホーム内は風通しが良く、ご利用者が快適に過ごして頂けるよう、換気や室温、明るさへの配慮も行われている。 | |
| 55 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 現状維持 | | |
| 56 | (23) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 家族と ご本人が 配置等相談されて置かれている | ご本人、ご家族と相談して、使い慣れたタンスや椅子、鏡台などを持って来て頂き、家具の配置なども相談しながら、ご本人に居心地良く過ごして頂いている。お菓子の空箱など集めてベットサイドに置いておられる方についても、処分をせずに、ご本人の希望を尊重するようにしている。 | |

| 自己 | 外部 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|----|---|--|------|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 57 | | <p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」 を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p> | <p>当日の歩行状態 体調の変化等 情報の共有をし 安全にすごせるようにしている</p> | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 58 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 65 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 59 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 66 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 60 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 61 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 69 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 63 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 70 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 64 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

事業所名: グループホーム 新多園

作成日: 平成 23 年 2 月 10 日

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
 目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

| 【目標達成計画】 注)「項目番号」の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。 | | | | | |
|--|------|---------------------|--|--|------------|
| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点、課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取り組み内容 | 目標達成に要する期間 |
| 1 | 7 | 運営に関する利用者・家族等の意見の反映 | 利用者、家族、ホームとの信頼関係の構築 | ご家族面会時に ご意見や要望がいただけるようスタッフからも働きかけを続け ご意見等を伺えたときはホーム内で討議を行ないまた必要に応じ運営推進協議会で報告をし 助言等を頂きご家族に回答を行う | 随時 ヶ月 |
| 2 | 13 | チームで作る介護計画とモニタリング | 短期目標の具体化 ご利用者の視点に立った表現 | ご利用者の頑張りや やる気が見えてくる短期目標に今後変更していく ご利用者の思いを分かりやすい言葉で表現し、計画に織り込んでいく | 12 ヶ月 |
| 3 | 15 | 災害対策 | 災害時に備えて 飲料水 食料関係 生活関係等の最低限必要な物品を3日以上準備する | 法人全体で検討中 保留 | ヶ月 |
| 4 | 16 | | | | ヶ月 |
| 5 | | | | | ヶ月 |